

出題者の責任

中学生は期末テストを終えました。中間テストの5教科に加え実技科目のテストも入った期末は、よほど計画的に勉強しないと満足いく結果は得られません。下手をするとどの教科も消化不良に陥ってしまい、惨たんたる結果が待つことになります。塾ではこのことをかなり前もって注意し、テスト対策プリントも学校から範囲表が出る前に範囲を予測して渡し、早めに勉強に取り組んでもらおうとしているのですが、そうできない人が実はほとんどです。特に中1、中2はおしりに火が着いてからでなくては取り組まず、結果、時間が足りなかったという人が多いので、内申が受験に関係してくる中3までに姿勢を改めていってほしいものです。

さあ、その中3ですが、勝負を賭けた1学期がとりあえず終わりました。もう学校は成績をつけ始めます。やるだけやったので、あとは結果を待つしかありません。

ところが、この大事な中3のテストにおいて、今回大変なミスが石尾台中学においておこってしまいました。それは数学なのですが、どうやっても因数分解できない問題が「因数分解せよ」という形で出題されたのです。完全に出题者（先生）のミスです。当然、生徒は必死になって解こうとし（普段から私が『計算問題だけは落とすな』と言っていることもあり）、ある塾生はかなりの時間をその問題に費やしてしまいました。にもかかわらず解けず、しかもそこより後の問題にかける時間が大幅に減り、その結果本来の実力が発揮できなかったのです。

テスト後に出題ミスとわかり、その2点は全員に上乘せされたようですが、その処置では私は納得できません。早く諦めて次の問題にいくべきだったとか、因数分解不可能ということに気がつかなかった点で力不足という意見もあるかもしれませんが、3月からこれまで、塾で相当量の練習を積んできた因数分解だからこそ何としても解こうと頑張ったその塾生の気持ちを思うと、2点だけで切り捨てられてしまうことには怒りを感じずにはいられないのです。学校は再テストを行うべきでしょう。社会や国語の誤字脱字とは違う思考時間を要する数学、しかも質問のしようがない計算問題だからです。頑張った子ほど無駄な時間を費やしたことになります。

人間が行うことですから必ずミスは起こります。でも、だからこそ、幾重にもチェックをし、細心の注意をはらって作成する責任が出題者にはあります。それが子どもの努力に対する最低限の礼儀でしょう。私自身も衿をただす思いです。

どういう評価がなされるのかわかりませんが、ただここで腐ってはいけません。気持ちをきりかえて、この結果をはね返すつもりで今日から過ごすことが大切です。がんばれ!!